

3段階評価 A:達成 B:一定の成果あり C:不十分

自己評定(総合)

B

学校関係者評定(総合)

A

教育の方針				
努力目標	自己評価	結果報告	外部評価	学校関係者(外部委員)からの意見・提言
1 建学の精神に基づき知識・技術・態度を身につけ優れた実践者としての判断力・応用力問題解決力が行使できる人材を育成する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の職員朝礼、ホームルームでの唱和により、日々、建学の精神に立ち返り教育活動を実施することができた。勤労を愛するについてはボランティア活動に出来る限り参加するよう声かけをした。 ・年間10回はボランティア活動に参加するというクラス目標を掲げ、取り組んでいる最中である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献としてのボランティアは、奄美看護福祉専門学校の学生は無くてはならないマンパワーとなっている。学生は、経験の場として、事業所等は後輩育成として貴重な時間としたい。学校も働きかけを行い、少ない職員数で対応をしていただき有難い。 ・目標値、達成率と出せたら自己、他者の評価がしやすいと考えます。 ・「建学の精神」に基づいた教育活動が行われていると思います。 ・大切なことは、目標を掲げ取り組むことである。
2 全学生の資格取得達成のため、授業評価を用いた授業改善、教材研究、研修に努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価を行うことで、教員自身も自身の授業の振り返りをすることができ、授業改善を行うことができた。 ・オンラインツールや電子黒板などの教材研究や研修を行い、学生へ還元できるよう努めた。 ・アプリを活用した国家試験対策を1年から3年まで導入し、国家試験への意識を高め、時間を有効に活用した対策ができた。 ・学生その日の表情やクラスの雰囲気なども配慮し、一方的な授業にならないように努めている。学生の集中力をみながら、グループワークなどを取り入れている。 ・授業評価を実施し授業の改善を図る努力はできた。しかし、学外はほとんどいけなかったが、リモートの研修会に参加することはできた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業 評価なども見直しを図り、バージョンアップをされているようで有難い。電子黒板なども ICT を図っており、講義もしやすかった。国家試験対策も細かく行い、学生へのフィードバックも細かく行われている。 ・学生、職員による満足度評価をされるとさらに実施した内容が評価ができると考えます。 ・オンライン授業の充実で学生の学びを効果的に行うことが出来ていると判断しました。 ・工夫しながら取り組んでいることが分かった。

教育の方針				
努力目標	自己評価	結果報告	外部評価	学校関係者(外部委員)からの意見・提言
3 全教職員が一丸となって教育相談を積極的にを行い、学生一人ひとりの理解に努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任を中心に学生一人一人と真摯に向き合い意見を傾聴し真摯に向き合うことに努めた。 ・また、学生の問題などは運営委員会や学科会議で対策を話し合い対処するよう努めた。 ・スクールカウンセラーを活用し、学生の精神面でのサポートを行った。 ・学生個々の問題に対しても、保護者と密に連絡を取り、課題や問題点を話し合い、問題解決に取り組んだ。 ・学習面だけでなく、進路や生活面においても積極的にかかわり、相談に乗るなどの対応を行えた。 ・学生の表情や何気ない会話などからも悩みがないか？学習に向けた生活が送れているか？など、気にしながら、ホームルームを行っている。場合によっては、保護者との連携も密に行っている。 ・定期的に学科の会議を実施し、各クラス、実習のなかで生じた問題を共通認識し、問題解決に向けて取り組むことができた。スクールカウンセラーの面談を実施しておりメンタル面でのサポートも実施することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学生への細かな配慮を行っており、学生の安心感にもつながっているのでは。情報量の多いご時世、学生も学びつつ、ゆらぎつつ、先生方のバックアップもあり、勉学に集中する機会を設けてもらっているのでは。 ・スクールカウンセラーによる取り組みの丁寧なサポートが出来ている、学習面の支援を確認したい。 ・スクールカウンセラーの活用で学生の心のケアに努められている様子が窺えました。不安を感じている学生に丁寧な対応を継続していただけたらと思います。 ・学生一人一人と真摯に向き合うことが大切で、全てが解決できるわけではない。
4 教員自ら率先垂範し、地域ボランティア活動等への積極的な参加を通して地域に愛される学校づくりに努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学生指導部を中心に地域ボランティアへの参加を行い、地域に貢献、根ざす活動ができたと感じる。 ・令和5年度のボランティアは52件、延べ608名の参加があった。 ・地区や通学路、海岸の清掃活動や、地域のイベントなど、また鹿児島国体やバリやフリー演劇鑑賞会など学生のボランティアが大きな力となったものもありました。地域活性のために学生が様々なところで求められていると考える。 ・小湊小学校の稲作授業や運動会、絵本の読み聞かせ、プール掃除など小規模校では運営が困難な行事に学生がかかわり、小湊小学校や地域との交流が行 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献として、近隣の小湊小学校では、奄美看護福祉専門学校の学生が重要なポジションを担っていると感じた。また、学生も多く経験を通し学ぶ機会を得ているのでは。是非継続されてください。 ・多くのボランティアが実施されているが、ボランティア活動を通じて、思いや考え方の変化が確認できると良いと考えます。(質の確認) ・積極的なボランティア活動が行われていると思います。 ・地域との交流は、学校においても学生においても大切な事なので、継続してほしい。

	<p>えました。また、本校の学生の授業の一環としても今後も継続していきたいと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 敬老会やゆうらおう会など地域の高齢者とかかわることも看護・介護・福祉の学びと同時に地域活性に繋がっていると思えた。 ・ 自分自身も地域内のボランティアや学生のボランティア活動の推進にも努めている。 ・ 前年度に比較しボランティア依頼の件数も増えていた。地域の清掃活動ボランティアや小湊敬老感謝の日にメッセージカードを配布するなど、工夫して地域との交流を図っていた。学生数の減少によりボランティアに参加する学生の人数を確保することが難しくなっている。 	
--	---	--

教育の方針			
努力目標	自己評価	結果報告	外部評価
<p>5 入学時からの進路啓発、進路面談を通して専門職に対する資格意識の高揚を図り、就職100%に努める。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度初めにも進路面談を行い、資格取得についても話し合い、座学、実技、実習でも意識するよう伝え、その上で現在の進路の方向性について学生と向き合った。 ・ 進路ガイダンスでは自分の進路になるかもしれないと考え傾聴することを伝えた。 ・ ハローワークと連携しジョブカードを作成し、ハローワークへの面談も実施した。 ・ 進路ガイダンスを行い、実際の病院関係者の声を学生に伝え、進路決定を促した。国家試験合格発表後に就職を決めた卒業生もあった。 ・ 第113回看護師国家試験は全国平均を下回る結果であった。学生・教員共に最大限の努力はできたが残念な結果となった。准看護師の資格を取得し医療機関に就職することができた。 ・ 介護福祉士国家試験合格率100%を達成することができた。 ・ 就職については、引き続き、就職100%を目指していく。 ・ 最終学年では、進路ガイダンスや面接指導、履歴 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護、介護の人材は、今後、無くてはならない存在。進路としても、学生が選ぶことができる環境がある。ボランティアを通し、自分の進みたい道(選択肢)を増やしてほしい。 ・ 学生の将来を考えて、求人票や求人情報の見方等必要な知識を提供できると良いかと考えます。また、卒業生の確認と情報共有できるとレベルアップできると思います。 ・ 就職率100%は大変素晴らしいと思います。看護師国家試験の結果が全国平均を下回ることになったのは残念ですが、卒業生の次年度国家試験に向けてのサポートをお願いいたします。

		<p>書記入指導など、就職に向けての取り組みを行った。看護学科では、国家試験合格に向けて、1年次から少人数のゼミ制を実施するなど学習へのサポートを行った。国家試験合格率は、こども・かいご福祉学科は、介護福祉士 100 %を達成した。看護学科は看護師国家試験 80.5 %と全国平均を下まわった。合格率 100 %を目指して努力したい。就職率も 100 %を達成できていないので、卒業生のフォローも実施するとともに、就職率 100 %、国家試験合格率 100 %を目指していきたい。</p>		
<p>6 教育事務所、地元関係各機関との連携強化に努める。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区対抗の駅伝などに参加し、また奄美市の成人の集いでも実行委員を務め、あらゆる場面で学生が活躍した。 ・ 定住を促す集いでは群島内の高校教員、奄美市、議会、病院や施設関係も参加していただき、連携の強化を図ることができた。 ・ 奄美市はたちの集いや鹿児島国体など地元の行政や教育機関への協力が行えた。 ・ 小湊町内会との連携によって清掃活動や敬老会などが行えた。また、授業としてのフィールドワークや方言教室なども地域と連携しながら行えた。 ・ 今年度も「若者の定住を促進する会」を開催し、各高校の先生へ本校の存在意義を伝えることができた。 ・ 市内の中学校から職業理解や体験学習などで本校に来校してくれた。奄美大島に住んでいても本校がどんなところなのか知らない子ども達も多くいるので、学校を知ってもらう良い機会になった。その中から、将来本校に入学してきてくれることを期待したい。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業体験などで奄美看護福祉専門学校に来る中学生が増える傾向にあり、良いことだと思います。学校だけの努力だけではなく、事業所も取り組まなければならないと感じた。 ・ 行政主催イベントに対して、以前参加した卒業生からの情報を学生にフィードバックして学生に返すとボランティアの良さが把握できると思います。 ・ 積極的に連携強化が取れていると感じました。

教育の方針			
努力目標	自己評価	結果報告	外部評価
7 全職員の協力による学生募集の推進	C	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスでは、コロナ禍に比べるとオンラインでの参加がなくなり、実際に来校し参加する体験者が増えてきている。しかし、今回の群島内の高校生の入学者が11名しか居らず、かなり少なく卒業後の若者の定住にも影響があるのではと感じる。 ・中学生向けの職業理解も毎年行われるようになり、早い段階から本校の認知がされるようになったのではないかと感じる。 ・出前講座では、各中学校や介護施設などからも依頼があり、行うことができた。 ・SNS に力を入れており Instagram では常に最新の情報を発信し、また身近に感じられるような内容とし閲覧者が入学後の自分をイメージできるように務めた。 ・YouTube 動画広告を初めて行い、ホームページへの誘導を行った。今後も活用していき、全国へ発信できるよう務めていきたい。 ・看護学科では昨年度から総合型選抜（AO）入試を開始した。AO ではほぼ予想通りの成果をあげることができたが、島外からの入学が増加し、地元からの進学が低下した。高校生へ地元進学の魅力をアピールする努力が必要。 ・併設校での説明会や九州管内でのガイダンスに積極的に参加している。 ・こども・かいご福祉学科独自の体験入学も企画し入学生への募集につなげたい。 ・ガイダンスや体験入学に参加した生徒が、令和5年度から開始したAO入試を受験してくれた。体験入学では教職員がアットホームな雰囲気に対応しているので効果的だと思う。定員確保は出来ていないので、もっとアイデアを出す必要がある。 	B
			<p>学校関係者(外部委員)からの意見・提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・YouTube のプロモーションビデオは、奄美の魅力伝えつつ、奄美看護福祉専門学校の特色もでており良かった。SNS での情報発信も多く、学生の活動も分かりやすかった。 ・以前と比較して学生募集に多くの職員や学生が参画していると考えます。SNS もイメージが伝わりやすいです。 ・クオリティの高いプロモーション動画が配信され、学生募集に繋がることを期待します。実習病院としても学生募集に協力することができればと考えています。